

# Chœur Rechant



クール・ルシャン

## 第4回 演奏会

2002年6月30日(日)

江戸川区総合区民ホール(大ホール)

### Greeting

ゆっくりと

大場 点

本日はご多忙の中、私たちの演奏会にお越しいただき、心よりお礼申し上げます。次第である。

近況として、4月末に初めての合宿をした。当然ながらこの演奏会に向けての練習がメインだが、月に2回の練習だけではなかなか話もできない団員相互の親睦を図る意味合いもあった。ルシャンが発足して4年になるが、少しずつ合唱団としてのまとまり、あるいは、団員同士の有機的な繋がりができつつあるように思う。しかし、合宿を発案するのに4年近くもかかっているのだから、ここでの時間の流れはとてものゆっくりなようだ。

ふりかえって、私も含め団員の半数以上は、週に何日も練習があり年に何回もステージがあるという、かなりハードな某一般合唱団に所属していた経験を持つ。だからこそ、このゆっくりとした時間の流れが心地よいのかも知れない。ただ、ゆっくりながら、また方向も定まらないながらも前進を続けていきたい。少なくとも音楽を志す者としての当然の使命として。

再演することでより長い期間をかけて歌い込み、作品の深部を探索する作業を試みている。器楽作品を合唱用に編曲・演奏することで、合唱の可能性を検討している。来年は、昨年のでテロ以降、世界中のあちこちに悲劇があふれていることから、レクイエムを取り上げようと考えている。それはある意味で、歌を歌う者のひとつの義務として。

ゆっくりとしながらも、ルシャンの進む道・あるべき姿を模索していきたい。あるいは、模索し続けることが今のルシャンの方向性かもしれないが、それならそれで全く差し支えないことだと思っている。

### Profile

ヴォイス・トレーナー : 錦織 まりあ (メゾソプラノ)

1996年愛知県芸術大学音楽学部声楽学科首席卒業、桑原賞受賞。同校主催卒業演奏会、読売新人演奏会出演。在学中よりオペラや宗教曲等の演奏会に数多く出演する。卒業後はドイツのナンブルグ教会、ワルシャワTVラジオホール及びオペラ座、ウィーンのシュェーベルト教会など海外に於いても宗教曲、ドイツリート等数多く出演し、好評を得る。また、森昌彦氏のもとでフスラーの理論に基づいた発声法を学び、現在では多数の声楽家や合唱団のヴォイス・トレーナーとしても活躍中。超美人!モデル系ヴォイス・トレーナー。そのしなやかで自然なフォームは、オジサンのみならず、団員のおネエさま方の憧れの的である。

### Menu

- I グレゴリオ聖歌 荘厳調による聖母マリアの交唱より  
Salve regina  
オケゲム Johannes Ockeghem (c.1425-1497)  
Salve regina めでたし元后よ  
タリス Thomas Tallis (c.1505-1585)  
O sacrum convivium おお神聖な宴よ
- II グレゴリオ聖歌 単純調による聖母マリアの交唱より  
Salve Regina  
プーランク Francis Poulenc (1899-1963)  
Salve regina (1941) めでたし元后よ  
メシアン Olivier Messiaen (1908-1992)  
O sacrum convivium (1937) おお神聖な宴よ

----- Intermission -----

- III ピアソラ Astor Piazzolla (1921-1992)  
Verano Porteño (1965) ブエノスアイレスの夏  
Otoño Porteño (1969) ブエノスアイレスの秋  
Invierno Porteño (1969) ブエノスアイレスの冬  
Primavera Porteña (1969) ブエノスアイレスの春  
編曲 大場 点

- IV ヴィヴァルディ 他 Antonio Vivaldi (1678-1741)  
パロディ混声合唱組曲「男の四季」  
春-潮来笠 佐伯孝夫 作詩 吉田 正 作曲  
夏-昭和ブルース 山上路夫 作詩 佐藤 勝 作曲  
秋-傷だらけの人生 藤田まさと 作詩 吉田 正 作曲  
そして冬-仁義 星野哲郎 作詩 中村千里 作曲  
編曲 大場 点

指揮 大場 点

## Note 1

### I & II ルネサンスから現代に至る宗教曲

#### Salve regina & O sacrum convivium

第1、第2ステージの冒頭に演奏するグレゴリオ聖歌は、共に一日の終わり（就寝前）の終課で歌われる聖母交唱に含まれるものである。第1ステージの荘厳調によるものは、プイの司教アデマール（1087-1098 在位）の作と伝えられている。装飾にみち、荘重で瞑想に富んだ旋律であり、ルネサンス期にはこの旋律を定旋律にした多声音楽が多く生み出されている。第2ステージの単純調によるものは、作者不詳で18世紀中旬の作といわれており、前者に比較すると時代はずっと新しい。調和のとれた簡潔な旋律には、現代的な調性が感じられる。

オケゲムは、フランドル楽派初期の最も代表的な作曲家である。彼は各声部に均衡を与えた対位法的作曲技法を極め、ポリフォニー音楽の基礎確立に大きく貢献した。今日演奏する *Salve regina* は、前述の荘厳調グレゴリオ聖歌からの旋律の引用が多く見られるが、定旋律としては扱われておらず、4つの声部は常に対等な立場を保っている。

フランドルで開花したルネサンス音楽は、徐々にヨーロッパ各地へと広がっていった。イギリスでは16世紀、ヘンリー8世の治世以降に大きな発展を遂げている。その中の重要な作曲家のひとりタリスであった。彼は対位法の技巧にすぐれ、多数の教会音楽を残している。*O sacrum convivium* もそのうちの一つで、キリスト聖体の祝日のためのマニフィカート・アンティフォナによる5声の作品である。

ルネサンス音楽の主流であった無伴奏合唱曲は、バロック期以降、楽器の発展に伴い表舞台から徐々に姿を消していった。再び多くの無伴奏合唱曲が産み出され始めるのは、20世紀に入ってからのこととなる。

20世紀の宗教合唱曲の主要作曲家として、ブランクは筆頭に挙げられるだろう。1936年、巡礼地ロカマドゥールの聖母像に深く心を動かされて作曲した「黒衣の聖母への連祷」によって、彼は宗教音楽作曲家としての一歩を踏み出している。*Salve regina* は、1941年占領下のパリにおいて作曲された。前述の単純調によるグレゴリオ聖歌を基調とし、簡潔ながらも洗練された書法の中に、彼の最も真摯なる宗教観を見出すことができる。

その独特なリズム語法や鳥の声の採譜などで知られるメシアンは、20世紀の音楽史上で非常に大きな存在である。また、敬虔なカトリック信徒であるということも、彼を語る上で忘れてはならない。特に、1940年代前半までの初期作品のほとんどは、その創作衝動の源をカトリック信仰に置いており、*O sacrum convivium* もそれらのひとつである。全体を通して3/8+3/4+3/8+2/4のリズム反復が基礎をなし、そこには宗教の普遍性が表現されている。

## Note 2

### III プエノスアイレスの四季

ピアソラ作曲

タンゴに現代音楽やクラシックなど多様な要素を組み込み、新しいタンゴ（nuevo tango）を形作った、いわばタンゴの革命児—アストル・ピアソラ。彼の音楽はまさに挑戦と情熱であり、聴く者の精神を沸騰させる。昨今のピアソラ・ブームは、確かにCMや映画に使われた影響もあるのだろうが、彼の曲に内在するエネルギーが我々の心に大きく作用した結果の必然かも知れない。

ピアソラにとって1960年代は、ニューヨークからプエノスアイレスへ帰国、ピアソラ五重奏団結成、スランプからの脱出と傑作「プエノスアイレスのマリア」完成と、まさに波乱の時期であった。「プエノスアイレスの四季」はまさにその頃の作品。4曲は組曲のスタイルをとっているわけではなく、それぞれが独立して作曲されたもので、演奏も個別に行われることが少なくない。本日は、作曲の年代に沿って夏から秋・冬・春の順に演奏する。編曲に際しては、1992年リリースの追悼盤CDの演奏を基準とした。旋律線を複数のパートで分担する手法を多用し、リズムのアタックを明確にするためスキヤットの子音やアクセント手法に工夫を施してある。また、調性は原曲と同一とした。

### IV バロディ混声合唱組曲「男の四季」

ヴィヴァルディ他 作曲

春、どこかバロック的な潮来笠1番に続き、春・第1楽章の中間部へ突入。第1主題を歌詞付きで歌った後、6/8に拍子を変え、2番は中世のモテットのスタイルで。そこから春・第3楽章中間部へ移行し、男声3番歌詞を無理矢理に絡め合わせて進行させてゆく。

夏、ため息のような夏・第1楽章主題を上3声で歌う下で、バスが昭和ブルース1番をひとしきりうなる。アルトからソプラノへメロディーを引き継ぎつつ、低声部は現代的なビートを伴って2～4番歌詞を平行で進行。そのまま夏・3楽章の嵐の終盤へ突入。

秋、収穫を祝う明るい秋・第3楽章から、傷だらけの人生1番をワルツにのせて。拍子を4/4へ変え、女声が秋・第1楽章中間部を、男声が傷だらけの人生2番を平行進行。重い3番のあと、秋・第2楽章を模倣した和音重ね合わせで、一筋の希望の光が射すように終わる。

冬、第1楽章のあと唐突に仁義1番をソプラノが歌い出す。アルトへとメロディーを引き継ぎ全パートがそろってサビをうなった後、テノールの「冬の旅」を間奏として2番へ。ラストは冬・第2楽章からプログラムにない全く別な曲へ移行していく。

ねらいはわらい。演奏中のわらい声はご遠慮無用です。

## Member

ソプラノ	相葉 昌枝 佐藤 純子 渡辺亜紀子	青山 裕子 豊崎 光子	井桁由美子 堀野 直美
アルト	稲葉由美子 草場 澄江 堀内みずき	鶴沢美紗子 柴 信子 増田佐智子	大樋 彩子 田中 和子
テノール	井桁 嘉一 木内 博和	大槻 幸雄 草場 康弘	川崎 将人
バス	天沼 透 瀬戸口 満	大樋 亨 増田 正樹	佐藤 正史 湯浅 康弘



## Information

### クール・ルシャンでは団員を募集中です。

- ◇練習場所 : 市川文化会館練習室または市川公民館
- ◇練習日時 : 第2・4土曜日 午後6時30分～9時30分
- ◇年会費 : 3000円ポッキリ (演奏会費用等は別途)
- ◇募集パート: 全パートを随時募集中
- ◇当面の目標: 来年6月予定の第5回演奏会  
予定曲目 Josquin des Prés / Stabat mater dolorosa,  
Gabriel Fauré / Requiem Op.48、他

◆見学歓迎! あなたの探している何かが見つかるかも…  
連絡先 Tel C (広瀬)  
Website <http://members.tripod.co.jp/obatomor/>